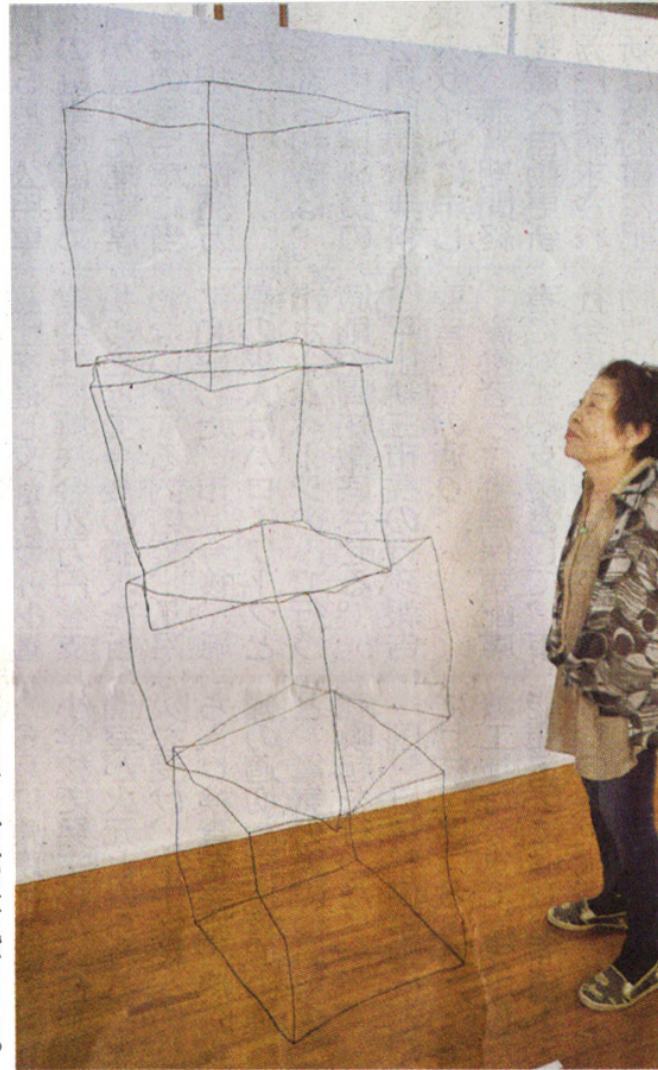


大月町で現代アート展

鑑賞者に問い提起 13日まで

ピアノ線を用いて「空気の気配」の表現を目指した作品
(大月町のCOSA)



【宿毛】大月町小才角の

創作・交流拠点COSAで5日、現代アート展が始まった。ピアノ線を用いて「空気の気配」の表現を目指した作品など約20点が並び、訪れた人は「どんな意図で制作したんだ」と驚き、じっくり向き合っていた。13日まで(8～10日休館)。

主催するギャラリー「+1art」(大阪市)の野口ちとせさん(61)＝同町竜ヶ

迫＝は「現代アートとは、制作者による問いの提起。鑑賞者が何を受け取るかで作品は成立する」とする。

芸術家の浮川秀信さん(83)＝大阪府阪南市＝は、ピアノ線を用いて約50センチ四方の「立方体に見える枠」を四つ重ねた作品を展示。

枠同士は固定されており、手で押すと作品全体が左右に揺れる。空気の気配の表現を試みたといい、浮川さんは「不安定だから空

間の揺らぎが表現できる。空気をつかんで、閉じ込めようとした」と話す。

京都市立芸術大学の大西伸明教授(54)は、電球そっくりの作品を会場につるした。丸いガラス部分は透明の亚克力樹脂で制作。樹脂越しに正面を見ると、光が屈折して上下が逆に見える。

同町周防形のベルリーフ大月でも6～13日に約20点を展示する(無休)。両会場とも午前10時～午後4時で入場無料。(田代雄人)